

PLASTIC MARKETで扱える再生材一覧

種類	工場	製法や特徴	再生の位置づけ（サステナブルとして）	長所	短所
1.封入再生材	ワーズウィズ静岡工場 (アート日向)	アクリル液体の中に粉砕したプラスチックを入れて「 ロック状 」に固める技法。厚みは100 t 以上も可能。本体：粉砕プラの割合は70%メド。	工場が出た使用済み廃材やプラスチック製品を粉砕してリサイクル使用はできるが、それを持続可能にリサイクルするにはクリアすべき課題がある。	外観がカラフルで見映えがする（Terrazzoのような表現も可能）アップサイクルの実現	コストは3種の中でいちばん高い
2.キャスト再生材	ワーズウィズ埼玉工場	アクリル液体の中に粉砕したプラスチックを入れて「 シート状 」にして板を作る技法。厚みは19 t まで。本体：粉砕プラの割合は30%メド。	工場が出た使用済み廃材やプラスチック製品を粉砕してリサイクル使用し、その板を再度板にすることは可能。最終調整（実際の回収の流れ等）が必要。	サステナブル観点だと一番的を得ている。1より安価に製造できる	色の指定が難しく一定にならない
3.中国再生材	中国（DONCHANP社）	不要アクリルを溶かしてアクリル液体に混ぜて「 シート状 」にして板を作る技法。厚みは30 t まで。本体：溶解プラの割合は50%メド。	工場が出た使用済みアクリルを粉砕してリサイクル品を製造することはできるが、一般の使用済みアクリルを再利用する流れは現状作られていない	コストが安い、国内流通物にはエコマーク認定品もあり	輸入品のためロットが膨大

